

関東支部シンポジウム

「気候変動シンポジウム～激変する地球と災害リスク～」のお知らせ（第3報）

関東支部では、近年問題となっている温暖化や集中豪雨等がもたらす災害リスクへの対応およびその備え、また過去の地球変動に学ぶ最新の知見等についても広く議論するため、気候変動に関するシンポジウムを開催いたします。研究者、実務者、自治体関係者、一般の皆様幅広いご参加をお待ちしております。

主催：一般社団法人日本地質学会関東支部

共催：横浜国立大学都市科学部

期日：平成30年3月17日（土）13時～18時、終了後大学内で懇親会を開催

場所：横浜国立大学教育文化ホール大集会室（キャンパスマップ S1-2 建物）

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ケ谷区常盤台 79-1

横浜市営地下鉄三沢上町駅より徒歩 16 分

アクセス案内 <http://www.ynu.ac.jp/access/>

キャンパスマップ http://www.ynu.ac.jp/access/map_campus.html

対象：日本地質学会会員および一般（非会員）

参加費：無料、事前申し込み不要

懇親会：会費 3,000 円（当日支払）、事前申し込み必要、締め切り 3 月 10 日（土）

申し込みは E メールで kanto@geosociety.jp まで（氏名、所属をご記入下さい）

要旨集：有料（一般 1,000 円、学生 500 円）

CPD 単位：取得可能（5 単位）

プログラムおよび講演仮タイトル

12：30～受付

司会 関東支部幹事 山本伸次

13：00～13：05 開会挨拶 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院長/都市科学部長 佐土原聡教授

13：05～13：45 JAMSTEC 中・高緯度気候変動予測チームリーダー 野中正見（海洋物理学・気象学）

「気候変動の季節予測とその応用」

13：45～14：15 武蔵野美術大学准教授 宮原ひろ子（太陽物理学、宇宙線物理学、宇宙気候学）

「太陽活動の気候影響 ～数十日スケールから千年スケールまで～」

14：15～14：45 国立極地研究所気水圏研究グループ・教授 本山秀明教授（雪氷水文学）

「極域のアイスコアから明らかになってきた過去の気候・環境変動」

14：45～15：15 横浜国立大学大学院環境情報研究院 間嶋隆一教授（地質学、層位・古生物学）

「“気候変動”などのイベントはどの程度地層に残されるのか？－横浜の第四紀の地層を例として－」

15：15～15：30 休憩

- 15 : 30~16 : 00 横浜国立大学大学院教育学研究科 筆保弘徳准教授 (気象学)
「世界初！ 台風ハザードマップの開発」
- 16 : 00~16 : 30 東京農工大学 石川芳治名誉教授・前砂防学会会長 (砂防学、森林科学)
「気候変動と土砂災害」
- 16 : 30~17 : 00 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 Rajib SHAW 教授 (防災科学)
「Local adaptation and risk reduction: Need for demand driven innovation」
- 17 : 00~17 : 30 東京工業大学地球生命研究所 丸山茂徳特命教授 (地質学、地球生命科学)
「21世紀の気候変動予測」
- 17 : 30~17 : 45 総合討論
- 17 : 45~17 : 50 閉会の挨拶 関東支部長 有馬眞

問い合わせ先

幹事 山本 伸次
横浜国立大学大学院環境情報研究院
都市科学部環境リスク共生学科／理工学部地球生態 EP 准教授
yamamoto-shinji-sp@ynu.ac.jp
電話 045-339-4498